

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
大垣市	青墓地区 （青墓町、青野町、榎戸町、 矢道町、昼飯町）	平成31年3月28日	令和4年2月22日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	215.3 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者及び耕作者の耕作面積の合計	184.8 ha
③地区内における60才以上の農業者の耕作面積の合計	56.0 ha
i うち後継者がいない農業者の耕作面積の合計	6.2 ha
ii うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	19.0 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	18.2 ha
（備考） 生産調整の対象水田を基にアンケート調査を実施した。	

2 対象地区の課題

青墓地区では、農業従事者の高齢化、農家数の減少、耕作放棄地の増加なども問題がある。 北西部（青墓町、青野町）では、鳥獣等による農作物被害が発生しており、耕作等に影響を及ぼしている。また、南部（矢道町）では、機械が入りづらい小区画の農地についての耕作が課題である。
--

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

中心経営体である法人の認定農業者の4経営体、集落営農の2組織に地域の農地集積・集約化を進める。
--

中心経営体

属性	農業者 （氏名・名称）	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農法	A	水稻、小麦 ブロッコリー、 さといも	58.0 ha	水稻、小麦 ブロッコリー、 さといも	60.0 ha	青墓町、昼飯町 榎戸町、青野町
認農法	B	水稻	22.6 ha	水稻	25.0 ha	青野町、榎戸町
認農法	C	水稻、小麦 大豆、ブロッコリー	35.4 ha	水稻、小麦 大豆、ブロッコリー	39.2 ha	青野町、榎戸町 昼飯町、矢道町
集	D	小麦	12.5 ha	小麦	12.5 ha	榎戸町、昼飯町
集	E	小麦、ブロッコリー	9.2 ha	小麦	9.2 ha	矢道町
認農	F	いちご	0.3 ha	いちご	0.3 ha	青野町
認農法	G	水稻	0.0 ha	水稻、大豆	10.0 ha	矢道町
計	7人		138 ha		156.2 ha	

「属性」の表記：「認農」は個人の認定農業者、「認農法」は法人の認定農業者、「集」は集落営農組織

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

○農地の貸付け等の意向

貸付けの意向が確認された農地は、66筆、53,630㎡となっている。
売却の意向が確認された農地は、37筆、24,824㎡となっている。

○農地中間管理機構の活用方針

地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける。
農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける。
農地中間管理事業等の契約が終期を迎えた農地については、引き続き中心経営体に農地集積を進めるとともに、効率的な作業による経営の安定を図るためにエリア分けを行い、農地の集約化を促進する。

○基盤整備への取組方針

農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、農地所有者の同意を得た上で畦畔の撤去等を行い、農地の大区画化等の基盤整備に取り組む。

○多面的機能支払交付金の取組

青墓・青野・榎戸地区において、農業・農村の有する多面的機能が今後適切に維持・発揮されるとともに担い手農家への農地集積という構造改革を後押しするよう、水路・農道等の管理に地域で取り組む。

○鳥獣被害防止対策の取組方針

各地域で侵入防止柵を設置するとともに、大垣市有害鳥獣捕獲隊や地域で組織された捕獲体制により鳥獣被害防止に取り組む。

○災害対策への取組方針

風水害、異常気象等の被害対策として、収入保険への加入を勧める。

○水や畦畔の草の管理方針

水や畦畔の草管理については、担い手と地域で話し合い、適正管理に努めていく。